

Open forum 2018 を終えて

12月2日（日）GEWEL Open forum 2018「Inclusion～自分らしくあるために～」が開催されました。今年は「ファミリーフレンドリー」を目指し初めて日曜日に実施し、お子様連れの方含め 100 名を超える人が来場し、多様な登壇者と共に「自分らしくある」について考える 1 日となりました。

GEWEL が「インクルージョン」をテーマに Open forum を開催するのは今年が 3 年目。2016 年「可能性を広げる」、2017 年「自分の価値を見つける」から集大成とも言える 2018 年は「自分らしくあるために行動する」としました。ひとつの答えの探し方として「枠とどう付き合うか」がまさに行動につながると GEWEL で考えたからです。

あなたにとって自分らしさとは何ですか？－そう聞かれると最初は答えに迷う方もいるかもしれません。

社会や地域、職場で日々、生活していると「枠」が存在することに気がつきます。それは周囲からの期待だったり自分が無意識のうちにかける暗示のようなものだったり環境の変化で新たに枠ができる事だったり…「いい子ども、いい親はこうあるべき」「女性らしく、男性らしくなきゃ」「自分はこうしたいけれど他の人とは違うから」この「枠」によって、気づかないうちに本来の自分からはほど遠い日常を送っている人も少なくないように感じます。

しかしながらこの枠を必ずしも嘆く必要はないとも考えています。今よりも自分らしくいられる場所はあるかもしれませんが枠がまったくないことはかえって生きづらいこともあるからです。私自身もいろいろな国に行ったり、いろいろな人と働いたりする中でも男性として、日本人として、私の年齢からくる周囲からの期待がありました。ときには窮屈に感じることもありますが、社会の枠があることで出会う人や広がる人脈、自分自身の存在が確認できる機会もたくさんありました。



Open forum では、さまざまなバックグラウンドを持つ登壇者から、さまざまな枠との付き合い方を教えてもらうことができました。認知症という従来の「枠をプラスに転換し素敵な場を地域に創出する」小国史朗氏、肌の色、国籍、障がい等の違いから自分らしさを定義し、周りの人へも影響を与えるヘンリーシールズ氏・アンジャナ KC 氏、従来の結婚観に囚われることをやめることで自分らしくいられたと語った大原学氏、自分らしくいられる場所＝心理的安全性を見つけることの大切さについて話す蔭山夏月氏、エシカルやジャーナリズム、自らが情熱を

そそぐものをとことん追求し「自分らしい生き方」を見せてくれた稲葉哲治氏・小西遊馬氏。自分らしく活き活きと活躍する登壇者のエピソードから感銘を受けるとともに、自分らしさを考えるための多くのヒントをもらうことができました。

自分らしくある、とは自分自身をインクルージョンすることー2019 年もさらに GEWEL にて追求していきたいと思います。

文：NPO 法人 GEWEL 理事 蓮見 勇太

また、今回は運営を GEWEL と学生 2 団体で実施しました。

そのうちのひとつ、NGO Diversity cafe 創立・代表 蔭山夏月さんのレポートをご覧ください。

早く行きたいなら一人で行け、遠くへ行きたいならみんなで行け

～NGO Diversity cafe 初その他団体とのコラボ企画～

「早く行きたいなら一人で行け、遠くへ行きたいならみんなで行け」

“If you want to go quickly, go alone. If you want to go far, go together.”

NGO Diversity cafe にとって初めての協働コラボ企画を終え、心に浮かんだ言葉はあるアフリカのことわざでした。

2018 年 3 月に NGO Diversity cafe を立ち上げ代表をしております、法政大学 4 年の蔭山夏月です。2018 年 12 月 2 日に東京会場では 100 名を超える方にお越しいただき、無事に開催することができました。開催したのは東京会場だけではありません。大阪、名古屋、福岡、仙台の 4 箇所と同時中継をしました。NGO Diversity cafe だけでは成し遂げられなかった全国を巻き込んだ企画です。

今回の Open forum 2018 は、3 団体コラボ企画でした。運営の 3 つの団体はなぜ繋がり、なぜ開いたのか。そこには共通する想い、キーワードがあります。それは、「ダイバーシティ・インクルージョン」です。

定義は様々ですが「人と人のちがいが認められ、一人ひとりが心理的安全を感じられる様子」を指します。日本でダイバーシティ・インクルージョンの推進活動の先駆者である「NPO 法人 GEWEL」の先輩方と、ダイバーシ

イを学問として学ぶ「ダレンゼミ」の皆さんと、ダイバーシティ・インクルージョンをキャリアの 1 つにしようと挑戦する「NGO Diversity cafe」のメンバーが、「一緒に」「ダイバーシティのインクルージョンされた世界へ」向かったのです。「Open forum 2018」はそのアクションでした。

そこで NGO Diversity cafe のメンバーは Open forum の開催に向けて大きく 5 つの役割を担いました。

1 つ目は、Open forum 2018 の登壇者の皆様との連携。私は登壇者担当として、スピーチの内容設定にも関わりました。

2 つ目は、総学生メンバーのマネージメント。学生リーダーとして Diversity cafe の濱田かなこがダレンゼミの皆さんとの連携においてリーダーシップを発揮しました。

3 つ目は、学生の参加者の集客。NGO Diversity cafe のソン・ヘウンがリーダーを務めました。

4 つ目は、当日の会場運営。無事プログラムがまわるように、事前の進行表作成、当日学生スタッフ約 20 名のリクルート、登壇者や参加者のフォローなど。

最後に、私ごとですが登壇者の 1 人として NGO Diversity cafe を代表しスピーチを担当しました。



100 人を超える規模のイベントは一筋縄ではありませんでした。

特に登壇者、他団体、当日スタッフなどの多くの方との連携で、上手いかず地団駄を踏みたい気分になったこともあったのは事実です。しかし、この多くの人と協力し合うある種の「もどかしさ」を超えた先で新しい景色を目にしました。一口にダイバーシティ・インクルージョンの推進活動に関心があると言ってもそのバックグラウンドは多様でその多様さ、ダイバーシティがこれまでの NGO Diversity cafe ではできなかった「ダイバーシティ・インクルージョン」のメッセージをつくり届けることに繋がりました。

そして、参加者の方と関わる中で気づいたことは、「ダイバーシティ・インクルージョンという言葉を知っている人は少ない」という現実でした。Open forum に来るような参加者の方でも、「蔭山さんのスピーチを聞いて初めてその言葉を知りました！」という方は多かったです。

言葉にこだわる必要はありませんが、インクルージョンのある世界へ行くためにこれからも皆さんと一緒に頑張って発信させていただきたいです！



改めてこのような NGO Diversity cafe のメンバーにイベント運営のオファーをくださり、たくさん支えていただいた GEWEL の皆さん、イベントの第 3 部を飾ってくれたダレンゼミの皆さん、ダイバーシティ・インクルージョンのあらゆる分野で活動する登壇者の皆さん、当日の運営を手伝ってくれたみなさん、そして参加することで一緒に Open forum 2018 をつくってくださった参加者の皆さん、最後に一番側で一緒に活動してくれる NGO Diversity cafe のみんなに、心から感謝の気持ちを込めて、「遠くへ」行く仲間として今後ともよろしく願い申し上げます！

この記事を読んでいる「あなた」もです！笑

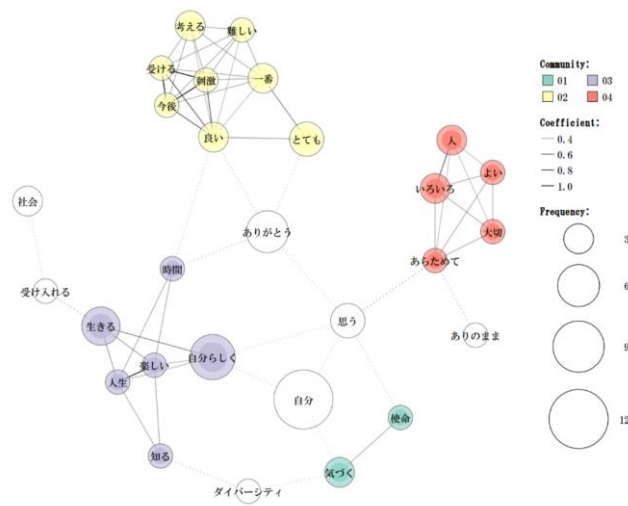
文：NGO Diversity cafe 創立・代表 蔭山夏月

GEWEL の木からみる、Open forum

GEWEL Open forum では、参加者の感想や気づきを葉っぱに見立てた付箋に書いていただき、木のイラストに張り付ける「GEWEL の木」を作成しています。

今回の Open forum の感想や気づきを、GEWEL 会員の川崎昌さんに取り纏めていただいたのでご紹介します。

.....



<頻出された言葉>

- ・「自分」「社会」「使命」「人生」(名詞)
- ・「自分らしく」「ありがとう」「ありのまま」「ダイバーシティ」(タグ)
- ・「生きる」「思う」「気づく」「考える」(動詞)

<全体を通して>

以下のようなコメントを書いてくださった方が多くいらっしゃいました。

Open forum に参加して、

- ・講演者、主催者への「ありがとう」という感謝の気持ち
- ・楽しい時間、とても良い時間であったこと
- ・あらためて、いろいろな人がいてよい、いろいろ（多様性）が大切だと思ったこと

Open forum が、

- ・今後のことを考える上で、良い刺激になったこと
- ・自分らしく生きること、受け入れることを考える場になったこと

取り纏め：GEWEL 会員 川崎 昌さん（リサーチー・目白大学客員研究員）

.....

運営学生ボランティア感想

12月2日に開催された GEWEL オープンフォーラム 2018 にてパンフット製作と当日の運営を務めました、上智大学総合グローバル学部総合グローバル学科 4 年の小久保真椰です。

今回は Diversity cafe という「あなた」が「あなた」でいられるように、相手と自分を受容できる人を増やすために活動している NGO のメンバーの一人として参加させていただきました。

Diversity cafe では、主に団体の広報をサポートしています。今回は、この GEWEL オープンフォーラム 2018 に携わせていただいた Diversity cafe の学生として、パンフットのデザインの意図、イベントに参加した感想、この 2 点について書かせていただきたいと思います、

まず、パンフットのデザインの意図についてですが、今年のテーマは「Inclusion ～自分らしくあるために～ 自分らしくいる勇氣を持っている人、枠を超えた人、そのためにコトを起こした人と一緒に自分らしさや自分軸での健幸を考える場」ということで、パンフレットには、勉強している人、仕事をしている人、食べている人、笑っている人…様々な人が描かれているイラストを使わせていただきました。

性別、年齢、国籍、肌の色も関係なく、自分が好きなことをして笑ってられる、自分が自分らしくいることがあたりまえに認められる社会であってほしい、そのような社会をこの場から発信していこう、という想いでこのパンフレットの表面のデザインをしました。このような想いをこのパンフレットから受け取ってくれた方が少しでもいてくだされば幸いです。また、パンフット全体は、GEWEL のロゴを連想するグリーンを基調として使っています。

次に、イベントに参加して感じたことについてです。

オープンフォーラムでは、ゲスト講演で 7 名のお話を聞きましたが、この講演を通じて、素直に、「自分らしく生きることがカッコイイ！」と思いました。周りの目が気になって、自分の考えが発信できない、自分が好きなことを好きと言えない、新しいことを始める勇氣が持てない人も多いと思います。しかし、「社会は自分たちが思っているほど自分たちに関心がない」という言葉を講演の中で聞いて、社会や周りの人を気にして「自分」が「自分らしく」いられないのはとてももったいないな、と感じました。自分にとっても、あなたにとっても一度きりの人生なら、自分が好きなことは好きだと言って、やりたいことに自分を捧げる人生の方がカッコイイ、そう思いました。

人の目を気にせずになんかに一生懸命になったり、努力をすることは決してダサいことではない、むしろ挑戦者の証だと私は考えています。「自分が自分らしく」いる勇氣を持って、これからも生きていこうと改めて思う機会になりました。

最後になりますが、今回このような貴重な機会をくださった GEWEL の皆様、ダレンゼミの方々、Diversity cafe のみんな、そして当日スタッフの皆さん、本当にありがとうございました。

文：Diversity café メンバー小久保真椰

今回のテーマは「Inclusion ～自分らしくあるために～」でした。「自分」のことを考えるきっかけとなっただけでなく、社会や人との関わりについても見つめなおす機会になった時間だったのではないのでしょうか。ご参加いただいた皆様ありがとうございました。

文：NPO 法人 GEWEL 理事 島谷美奈子